

科目 コード	11140	授業 科目	哲 学 (Philosophy)			担当 教員	○大城信哉(非常勤)		
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目	授業 形態	講 義		
選択必修	選 択	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	「自我」「自然」「人間」のありよう等について哲学的に考察する力を身につけられるように具体的事例と結びつけて、哲学とは何かを学習する。								
到達目標	1. 批判的に検討する姿勢を学び、多角的かつ合理的に考えられるようになる。 2. 哲学的な考え方について、具体的な事例に即して説明できるようになる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	<p>講義担当者は講義内容を用意してくるが(あたりまえである)、受講者から問題提起があればそちらを優先しても良い。以下はあくまで叩き台として提示する全体の概略である。</p> <p>講義概要および哲学の概略的紹介、受講者諸君との合意作り</p> <p>哲学という考え方について (1) 反省について</p> <p>哲学という考え方について (2) 規範と自然</p> <p>哲学という考え方について (3) 「私」とは誰か</p> <p>哲学という考え方について (4) 人間であること</p> <p>論理的に考えるために 思考と文章</p> <p>哲学史の問題 (1) 古代ギリシア</p> <p>哲学史の問題 (2) 中世から近世</p> <p>哲学史の問題 (3) 近代から現代へ</p> <p>現代社会と哲学 (1) 現代の人間観と社会観</p> <p>現代社会と哲学 (2) 科学について</p> <p>現代社会と哲学 (3) 宗教について</p> <p>現代社会と哲学 (4) 美と芸術について</p> <p>現代社会と哲学 (5) 生命について</p> <p>まとめ 哲学の自己批判</p>					各講義時に説明。全体的に言うなら予習は不要、しかし復習は必要である。	大城信哉	講義	
テキスト	使用しない。資料を適宜配布する。								
参考文献	教室にて指示する。								
他科目との 関連	合理的かつ批判的な思考はすべての学問に必要なので、他科目全般に通じよう。								
成績評価 の方法	受講態度や小テストの他、最終レポートを課すつもりだが、詳細は第1回講義時に受講生諸君と協議したい。								
学習相談・ 助言体制	講義中もしくは講義終了時に質問あるいは相談してくれたら、その都度対応する。								
授業改善の 特記事項	授業評価に記された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく他、学期中でも受講者諸君の気づいたところがあれば言ってほしい。改善すべきところがあれば随時改善する。								
備 考	取り立てて事前の知識は必要としないが、受講者諸君の積極的な参加を希望する。哲学の問題とは生きること、自分自身であること、正しくあることなどなど、すべての人に関わるものである。決して一部専門家だけに関わるものではないのだから。								

科目 コード	11110	授業 科目	心 理 学 (Psychology)			担当 教員	○渡久山朝裕	
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	心理学の主要な領域からの研究成果やトピックにふれつつ、人間の心と行動、文化に理解を深め、心理現象のメカニズム、内省、コミュニケーション、集団力動等について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の専門用語を学び、適切に使うことができる。 2. 人間の心と行動の諸特徴を知る。 3. 自己および他者の内面で動いている心理現象に気づくことができる。 4. ストレスと心の健康について理解できる。 5. 集団の特徴について知る。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習	担当者名	授業形態	
第1回	授業の概要説明					渡久山	講義	
第2回	心理学とは				P1-10			
第3回	知覚				P23-30			
第4回	学習				P31-42			
第5回	認知・内省				P43-55			
第6回	動機づけ				P57-64			
第7回	感情・コミュニケーション				P65-69			
第8回	ストレスと心の健康				P71-80			
第9回	心の病理と健康①：神経症・アルコール依存症				資料			
第10回	心の病理と健康②：うつ病・統合失調症				資料			
第11回	発達				P93-103			
第12回	パーソナリティ				P105-109			
第13回	フロイトの精神分析①：理論				P109-112			
第14回	フロイトの精神分析②：治療法				資料			
第15回	集団力学・リーダーシップ				P119-125			
テキスト	「スタディガイド心理学」：美濃哲郎・大石史博（編） ナカニシヤ出版 ¥2,000							
参考文献	適宜、紹介する。							
他科目との 関連	「人間関係論」「臨床心理」での学習につなげる。							
成績評価 の方法	授業参加状況15%、ミニ・レポート6%、期末レポート15%、期末試験64%							
学習相談・ 助言体制	毎回の授業の終了時に提出させる出席カードに、理解できなかった内容、疑問に感じた点等を記述させ、次回の授業の冒頭で説明・補足を行う。							
授業改善の 特記事項	心理学の様々な分野に関する文献を検索し、報告するミニ・レポートを学期中に3回程度、課すことで心理学の幅広さを理解させ、興味・関心を喚起し、図書館になじませる。							
備 考	テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。							

科目 コード	11130	授業 科目	教育学 (Education)			担当 教員	○浅野誠(非常勤)	
開講年次	2年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目		授業 形態	講 義
選択必修	選 択	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	教育形態の分類、学習の成り立ち、制度としての教育(学校)と教育思想の変遷、現代における我が国の教育観、教育文化について学習する。							
到達目標	1. 教育についての関心・認識・考えを広げ深めること 2. 受講生相互の協同的知的活動を通して、教育の前提である人間関係を広げ深めること 3. 教育的発想・教育的関わりの初歩を体験的に学びとる							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)		担当者名	授業形態
第1回の1 第1回の2 第2回の1 第2回の2 第3回の1 第3回の2 第4回の1 第4回の2 第5回の1 第5回の2 第6回の1 第6回の2 第7回の1 第7回の2 第8回	自己発見・他者発見 人間関係づくり 学校 学習 教育内容 教科 学校と社会 教育方法 学校改革 教師と生徒 教育環境 施設設備と教育方法 教育と福祉教育史 人生創造と教育 人生の価値と教育 社会変化と教育 子ども・若者 進路指導 沖縄おこし・人生おこしの教育 健康と教育 世界と教育 政治経済と教育 教育と参加 教育実践 授業・ワークショップⅠ 教育と参加 教育実践 授業・ワークショップⅡ 自己評価 他者評価 発見創造としての教育				テキストNo.1 テキストNo.24、25 テキストNo.26、27 教育体験の振り返Ⅰ 教育体験の振り返Ⅱ テキストNo.7～20 テキスト冒頭論文 テキストNo.2～6 テキストNo.23 『沖縄おこし・人生おこしの教育』 「国際会議」の準備 「国際会議」の準備 プランづくり(テキスト全体を参照) 自己評価・他者評価用紙		浅 野	講義
テキスト	「浅野誠ワークショップシリーズNo.5 人生創造」							
参考文献	浅野誠「沖縄おこし・人生おこしの教育」、浅野誠「<生き方>を創る教育」 ほか							
他科目との 関連	授業科目全般							
成績評価 の方法	1) 毎回のレポート(予習・中間メモ・最終メモを含む)7回 各2～0ポイント 2) 特別レポート 1～2回 各4～0ポイント 3) ワークショップづくりなど、授業過程での貢献 随時1～3ポイント 以上の総計×5で算出した点数を、看護大学評価基準にあてはめて評価する。							
学習相談・ 助言体制	授業前後の時間での面談 メールによる相談							
授業改善の 特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。							
備 考	考えを出し合いつつ、クラスメイトとの多様な交流協同活動を軸にした大変活動的な授業です。与えられたものをこなすという受身型ではありません。積極的な行動が期待されます。							

科目 コード	11160	授業 科目	文 学 (Literature)			担当 教員	○波平八郎(非常勤)		
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	教養科目	授業 形態	講 義		
選択必修	選 択	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	人間理解を深められるように、文学作品を解釈並びに享受するための様々な方法論を概観するとともに、沖縄の文学作品についても学習する。								
到達目標	1. 物語の構造分析の理論を説明できる 2. ある物語についてその理論を適用して分析することができる 3. 日本および沖縄の文学の代表的な作品についてその概要を説明することができる								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	オリエンテーション 読むための理論 プロップの理論 物語の構造分析① 物語の構造分析② 物語の構造分析③ 日本の上代文学 日本の中世文学 日本の近世文学 日本の近代文学 沖縄の文学(琉歌) 沖縄の文学(組踊) さまざまな文学① さまざまな文学② まとめ				[1-2]レポート の作品を決定。 [3]配布資料 [4-6]作品を分 析しレポートに まとめる。 [7]配布資料 [8-9]配布資料 [10-12]配布資 料 [13-14]配布資 料	波 平	講義		
テキスト	なし。授業中に適宜資料を配布する。								
参考文献	1. 大江健三郎『新しい文学のために』(岩波新書) 2. 沖縄県教育文化資料センター編『新編 沖縄の文学』(沖縄時事出版) 3. その他								
他科目との 関連	他のすべての科目をとおして、言語表現の方法について意識的であることを心がけること。								
成績評価 の方法	授業参加状況10%、学習参加状況・課題レポート20%、試験70%								
学習相談・ 助言体制	授業についての質問はメールで送るように。namihira@okigei.ac.jp (沖縄県立芸術大学)								
授業改善の 特記事項	教員と学生のインタラクティブ(対話的)な授業にするために、受講生は授業中にレポートや意見の発表が求められる。								
備 考	なし								

備 考

本講義では琉球・沖縄の歴史を中心に扱う。歴史全体を概観することはせず、近世と近現代のなかから人物やいくつかのトピックをとりあげる。第1回目ではアンケートを実施し、その結果によってシラバスに柔軟性を加味することにする。また、毎回のテーマの進捗状況などによって扱うテーマを多少変更する場合もある（とくに巡見は天候により計画変更する場合がある）。本講義が歴史について自分なりに考えるきっかけになれば幸いである。